

MIL通信

モラリティ・インプルーブメント通信
《WEB版 第2号》

特集内容

学校・家庭・地域が共に取り組む 道徳教育の実践事例 (教師力ブラッシュアップVol.3)



モラリティ・インプルーブメント・ミーティング事務局
姶 良 市 教 育 委 員 会

写真で語る道徳教育の実践事例 (教師力ブラッシュアップVol. 3)

学校・学級での取組 編

児童会の取組「ありがとうの木」～栃城小～

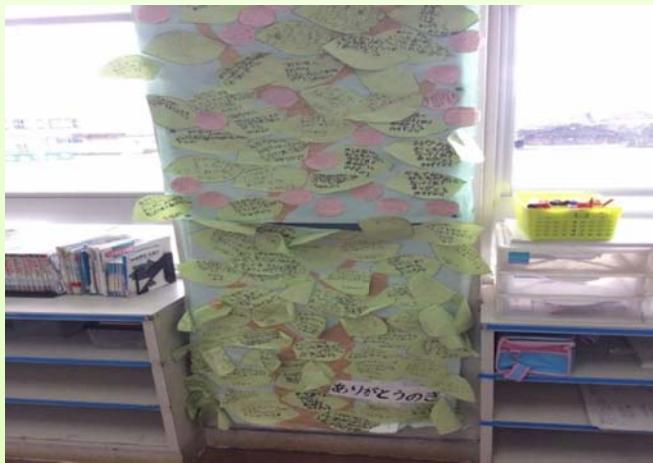


これは、児童会が、「いじめ〇みんななかよし栃城の子」のスローガンを達成するために作成した「ありがとうの木」です。「ありがとうの木」は、廊下に大きく掲示してあり、友達への感謝のメッセージカードを自由に貼ることができます。掲示してある「ありがとうの木」の前を通るとき、メッセージを読んでいる子どもの姿もよく見られます。

栃城小学校の児童会は、「いじめ〇みんななかよし栃城の子」のスローガンを達成するために、どんな取組ができるかを話し合ってきました。そこで、みんなが参加でき、廊下を通るたびに読むことができる「ありがとうの木」に取り組むことになりました。

現在、「ありがとうの木」には「6年生のみなさん、集団登校でまとめてありがとう。」「〇〇さん、手が痛いときに、そうきんを絞ってくれてありがとう。」などの多くの感謝のメッセージが貼られています。保護者からも、「ありがとうの木が子どもの優しさや思いやりの心を育てる上で、たいへんよい効果を出している。」との声が聞かれています。

「ありがとうの木」で感謝の気持ちを伝える子どもを育てる ~柁城小~



学級に掲示してある『ありがとうの木』には、子どもたちや、保護者の感謝の言葉がたくさん貼られています。

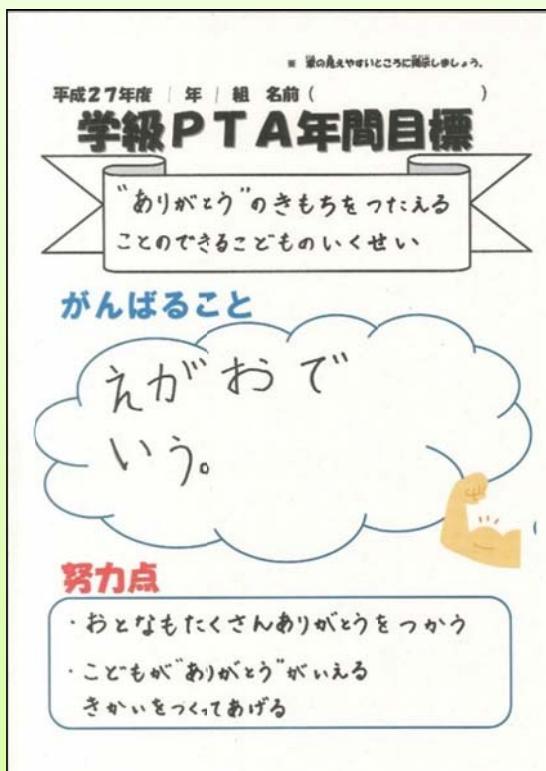
年間を通して取り組んだ結果、広幅用紙4枚分の大きさの木になり、教室中が『ありがとう』で満ちています。

子どもたちが感謝の言葉を書くときは、葉っぱの形に書きます。「いつもやさしくしてくれてありがとう。」「ともだちになってくれてありがとう。」など、多くの感謝の言葉でいっぱいになっています。

保護者には、学級PTAや週報等で趣旨を説明し、赤い実の形をしたカードを配布しています。「洗濯物をたたむお手伝いをしてくれてありがとう。」「お仕事が遅くなったとき、お手紙を書いてくれてありがとう。」など、温かい言葉をたくさん書いていただき、掲示しています。

道徳の時間や、朝の会、帰りの会等で紹介し、活用しています。

家庭と連携した道徳教育 ~柁城小~



柁城小学校PTAでは、4月の学級PTAで、道徳教育に関する「学級PTA年間目標」を設定し、学校と家庭が連携して子どもの道徳教育を行っています。左の図は、その年間目標の達成に向けた努力点を記したポスターです。

子どもが書く「頑張ること」の欄と、保護者が書く「努力点」の欄があり、各家庭で目立つ場所に掲示することで、年間を通して継続的に取り組むことを目的としています。

ポスター作成後は、学級PTAの度に、各家庭で取り組んでいることや子どもの変容などの情報交換をしながら、今後の改善策を話し合っています。家庭からは、「以前より『ありがとう。』を言えるようになってきた。」「子どもが『ありがとう。』を意識するようになった」などの声も聞こえてくるようになりました。

「朝のパワーチャージ！」あいさつ運動～錦江小～



暑さや寒さに負けず、元気なあいさつ！

「おはようございます！」今日も錦江小学校では、元気な朝のあいさつが見られます。毎週水曜日の7時40分から7時50分まで『朝のあいさつ運動』を行っています。生活環境委員会の5・6年生を中心として、縦割りグループの全校児童が輪番で校門に立ちます。保護者の方や地域のスクールガードの方も一緒にあいさつ運動を行ってくれるので、あいさつの声もさらに元気になっていきます。

子どもたちは、朝のあいさつ運動を行うことで「気持ちよく一日のスタートをきくことができる」「あいさつをすると自分も相手も気持ちがよくなる」「これからも立ち止まってあいさつするのを心がけたい」等、あいさつのよさや効果を実感しています。

これからも、周りの人に元気を届けられるようなあいさつを心がけるように、励ましながら、実践を継続させていきます。

みんなでつくる楽しい学級！～永原小～



具体的な働きかけ

私たちのクラスは3・4年の複式学級のため、学習面においても生活面においても共に助け合い、協力し合う姿勢が必要です。

学習面においてはガイド学習を行う必要があり、ガイドの役割を果たすと共に、フロアの役割を果たし、お互いに協力し合って学習を進めようとしています。

生活面においては上學年が手本を見せ下學年が学ぶといった協力や、男女で共に協力し合って楽しい学級づくりをしています。

帰りの会では、「友だちのいいところ」発表があり、楽しい学級づくりに必要な言動が具体的に挙げられています。

うれしいね 楽しいね 秋まつり ~帖佐小~



- 学 年 第2学年 ○ 関連する教科等 生活科
○ 関連する指導内容 2-(2) 思いや・親切

活動のねらい

校区内の幼稚園や保育園、保育所の子どもたちを招いて、小さな子どもたちに秋祭りを楽しんでもらう体験を通して、親切にする気持ちよさを知る。



子どもの反応

楽しんでもらうためにはどんなことに気を付ければよいか、自分たちなりに考えながら準備に取り組んだ。当日、夢中になって楽しんでいる小さな子どもたちの様子を見て、2年児童等はとても満足していた。翌日の日記には、やり遂げた感を書いてきた児童が多数いた。

伝えよう 感謝の気持ち ~帖佐小~



保護者とのお手紙交換

- 学 年 第4学年
○主 題 名 「感謝の気持ちを伝えよう」
○指導内容 2-(5) 尊敬・感謝

ねらい

- これまでの十年間を振り返って、自分自身の成長と家族の思いに気付き、感謝の気持ちを高めることができる。
- 自分の将来の夢について調べたり、自分ができることを具体的に考えたりして、これから的生活に生かすことができる。
- 半成人式を計画・準備・実施することを通して、高学年への自覚化へと繋げることができる。



わたしの夢発表

具体的な働きかけと子どもの反応

- 道徳の時間に家族愛の内容項目を学習し、活動のきっかけづくりをした。
- 日頃の感謝の気持ちを伝えるため、家族に支えられた体験を中心に作文に書かせ、これまでの十年間を振り返らせた。
- 日頃からの「ありがとう」の気持ちを、子どもから保護者へ伝えた。また、保護者からも子ども宛の手紙を書いてもらい、半成人式で手紙を交換する場面を設定した。
- 子ども一人一人が自分の将来の夢と親への感謝の気持ちを堂々と発表することができた。

見つけよう ふれ合あう 高齢者福祉～帖佐小～

○学 年 第5学年

○関連する指導内容 2-(2) 親切、思いやり

ねらい

高齢者の方々との触れ合いを通して、誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にしようとする心情を育む



学習の流れ

- 1 「高齢者福祉」の意味について調べる。
- 2 高齢者の身体機能の特徴について調べる。
- 3 高齢者の方との接し方について調べる。
- 4 高齢者の方とグランドゴルフを通してふれ合う。

子どもの反応

- A児… 私は生活中であまり高齢者の方とふれ合うことがありませんでした。今回の学習は、とてもいい機会になりました。
- B児… これからは、高齢者の方へも進んでいきたいです。信号をわたる時に手をかしたりしていきたいです。
- C児… 高齢者になると音が聞こえづらかったり、つまずきやすくなったりするので、やさしく大きな声で話したり、高齢者の方に合わせて歩いたりしてあげたいです
- D児… おじいちゃん、おばあちゃんたちと、今まで以上にしゃべったり、遊んだりしたいです。

今、日本は4人に1人が高齢者という超高齢社会です。高齢者福祉について考えを深めることが大切な時代になっています。

そこで、5年生では総合的な学習に時間において、高齢者福祉について考える学習を行いました。インターネットを使って高齢者の方々の身体機能の特徴について調べたり、グランドゴルフを通して実際に高齢者の方々とふれ合う活動を行ったりしました。

保護者の実践事例「明るいあいさつで豊かな心を育む取組」～建昌小～

具体的実践	成果・子どもの変容等
<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分から進んで挨拶をすること ○ 朝、起きたら必ず「おはよう」学校に行く時に父母が「行ってらっしゃい」子「行ってきます」とタッチします。 ○ 人がしてくれたことに感謝をすることを意識しています。 ○ 「おはよう」「いただきます」「ありがとう」など、かねてから使う普通のあいさつ ○ 「おはよう」「おやすみなさい」「言ってきます」「ただいま」「ごちそうさま」「ごめんなさい」「ありがとう」は場面に応じて必ず言う。特に朝のあいさつは自分から言うように教えている。 ○ 当たり前のあいさつをしっかりすること。 (おはようございます・こんにちは・こんばんは・ありがとう・ごめんなさい 等) ○ 基本のあいさつを笑顔で言う。 ○ 朝、一人一人の子供をだっこして「おはよう」とあいさつしている。 ○ 朝一の「おはよう」を必ず家族みんなに言う。道を歩いている時に会った人への挨拶 ○ 食事の前に「お父さん、お母さん作ってくれてありがとうございます。感謝を込めていただきます」と言ってから食べるようになっています。 ○ 誰かが出かける時は、みんなで玄関まで見送り「いってらっしゃい」を言う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ まずは私たち親が進んで挨拶をすることで子供達も自分から挨拶をしてくれるようになった。 ・ 外でも自分から元気よくあいさつができるようになりました。 ・ あいさつを通して、次の会話へつながるようになった。 ・ 朝のあいさつから会話がはじまるので家族間のコミュニケーションがスムーズに図れていると思います。思春期に入る長女とも大切なコミュニケーションツールとしてあいさつは続けていきたいと思います。 ・ 誰にでも大きな声であいさつができるようになります。 ・ 子供も自然と笑顔になり、心が穏やかになり自分から進んであいさつをするようになった。 ・ 最初は恥ずかしがっていたが、最近は朝「おはよう」と言って近寄ってきます。(親子のズキソッフ) ・ 最初の頃は声も小さく恥ずかしがっていたが、少しずつ慣れ大きな声になりました。 ・ ただ「いただきます」と言うよりも、作ってもらっているというのがわかり気持ちを込めて食べるようになりました。残さなくなった。 ・ 小さい頃からの習慣なので当たり前になっている

保護者の実践事例「感謝する気持ちを育む取組」～建昌小～

具体的実践	成果・子どもの変容等
<ul style="list-style-type: none"> ○ 感謝の気持ちは思うだけではダメ。言葉で伝えること。 ○ 「いただきます」「ごちそうさまでした」「いつもありがとう」を大きな声で！ ○ 言葉できちんと表現するようにしています ○ 言葉に出してお礼を言う。 ○ 「お父さんが一生懸命仕事をしてくれているので3回の食事が出来ている」という事は機会を作って話しています。 ○ どんな小さな事でも「ありがとう」と言ってハグします。 ○ 日常の些細な事でもしてもらって嬉しかった事や助かった時には「ありがとう」と言う。 ○ 自分が嬉しかったことは「ありがとう」と言葉に出して伝える。 ○ ～してくれてありがとう、～してくれて助かった等、言葉にするようにしています。 ○ 手紙（メモ）を書いて「今日はありがとう」と机の上などにのせたりしている。 ○ 「感謝ノート」を毎日書いている。 ○ 家庭の誕生日には必ず全員でお祝いをして手紙等を渡しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ お手紙に「いつもありがとう」とか「お世話（ご飯作ってくれて）ありがとう」書いてプレゼントしてくれます。 ・ 最初は義理のように言っていましたが自分で気がついて言うことが増えてきました。 ・ お礼を言ったり言われたりする事で「もっと頑張ろう」という気持ちが芽生えた。 ・ お父さんの帰りが遅くなる日が続き、子供達に会えない時には子供自ら「お父さんへ」お仕事頑張ってくれてありがとう、と手紙を書くことがあります。 ・ 兄弟でも「ありがとう」&ハグするようになりました。 ・ 家の手伝いを進んでするようになった。 ・ お手伝いを進んでしてくれるようになった。 ・ ご飯炊き、ふろの準備、せんたく物たたみなど、お手伝いをよくしてくれるようになった。 ・ 夜の会に出かけ帰ると玄関のスリッパに「今日はお疲れ様でした」とメモを貼ってくれる。 ・ 子供の発想で子供なりに感謝していると、親も楽しく読んでいます。 ・ 体調が悪い時など何も言わなくても自分から手伝いをしてくれたり気遣ってくれたりするようになった。

保護者の実践事例 「ルールやマナーを守るための取組」 ~建昌小~

具体的実践	成果・子どもの変容等
○ ご飯の時間を大事にする。(食事の準備の手伝い、自分の食べた物は片付ける)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 唯一全員で過ごす時間です。一日の出来事をよく話してくれるようになった。友達の家や実家でも、後片付けをするようになりました。
○ 小さい時(幼児)から自分がされて嫌な事を他人にするなと言っていました。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 思いやの気持ちを持っていると思います。
○ 親との約束、取り決めは守る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の家についつい遅くまでいて約束を守れない事があっても次回から自ら気をつけるようになりました。
○ 親や兄姉から注意された事はできる限り、その時改善していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・ なかなかうまくいかない。
○ ①あいさつは自分から ②地域の方へのあいさつも自分から ③休日は親子でジョギング	<ul style="list-style-type: none"> ・ ①②は自然にあいさつが出来るようになった。声が大きくなるともっといいかなど思います。 ③は体を動かす事で心がスッキリとすることを実感できるようになっています。
○ 一. 約束を守ること 二. うそをつかないこと 三. 決して、逃げないこと 四. 人に迷惑をかけないこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ すべてを完璧に守ることはできていないが、守ろうと努力している姿が見受けられる。
○ 一家庭一家訓「自分のことは自分でする」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 続けていくことで少しづつ実行できてきました。
○ 夜7時にはTVを消して夕食と一緒に食べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一日あったこと(学校や友達のこと)をよく話してくれて、次から次に発言して話が盛り上がり、つい長時間の夕食タイムになってしまふ。
○ 一日テレビは1時間、一日一つでもお手伝いをしたら20円のお小遣い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分で見たいチャンネルや姉妹で話し合って番組を決める。
○ 「ありがとう」「ごめんなさい」はすぐ言うこと、相手の気持ちになって考えること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ありがとう」はお互いに嬉しくなり、笑顔になれることが増えた。会話が増えた。
○ 遊びたいときは当日の約束はしてはいけない。必ず前もって「場所」、「時間」、「誰と」を伝える	<ul style="list-style-type: none"> ・ 勝手に遊びに行くことがなくなり時間を守るようになりました。
○ 自分でできることは自分でするが基本ですが、自分の事だけでなく他の人の事も手伝ってあげられるようになろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言わなくても自分からお手伝いしてくれるようになりました。
○ 美化運動や敬老会(日本舞踊)の参加	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ地区に友達がいないと、なかなか参加する機会が少なかったりします。
○ テストの点数が悪かったり兄弟ケンカをしたりするとゲームが禁止になる。(短縮ルールあり)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 勉強へ取り組む姿勢や自主性がついてきた

保護者の実践事例「ふるさと愛し、ふるさとを守る取組」～建昌小～

具体的実践	成果・子どもの変容等
○ 昨年4月より自治会の子供会がなくなりました。それまでは地域の砵-ツ大会や高齢者との懇親会に参加していました。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の方々と触れあえ、高齢者を思いやることができるように自然となってくると思う。
○ 子供会がないので……	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間の行事等、家庭で娘達とやって教えるようにしています。(自分の母に聞いたりして)
○ 地区の行事には楽しく参加しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供達は集まると楽しそうです。近くの子供同士知っていることは大きな財産だと思います。親が見守り、近所の子供が集まる機会がもっとあるといいですね。難しいですが……
○ 子供会や自治会の行事にはできる限り参加している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周囲の保護者、おじいさん、おばあさん達に顔を覚えてもらうことができ良かった。
○ ①子供会の行事には親子で積極的に参加楽しんでいます。 ②鹿児島県の偉人と始良の郷土史について学ぶことを大切にしています。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ①子供会に参加し異年齢の集団の中での自分の立場を考え行動することを経験することが出来る。これからも子供会の活動は活発になるといいなと思っている。 ②島津義弘、西郷隆盛をはじめとする郷土の偉人と郷土の歴史に興味を持つことは子ども達の人生に大きな豊かな影響を与えるのではないかと思っています。
○ 地域の清掃活動に参加しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近所の方に会って会話をすることで面識ができるので、日頃子どもの登下校時などに声かけしてもらうことで防犯になると思っています。
○ ・子供会への参加 ・広報誌の案内や記事に載っている行事等に親子で参加	<ul style="list-style-type: none"> ・ 季節の行事を楽しめて先人の方々の知恵を知る事ができる。
○ 始良にあるいろんな行事に参加したり行ったりして地域を知り故郷を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町がどんなものがある、昔からしている行事などを見ること。
○ 子供会、自治会の七夕かざりつけ、グラウンドゴルフ大会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の方々と仲良くなり、顔を覚えてもらうことで見守りや安心につながると思います。
○ 日曜日にある地区の資源ゴミ当番に連れて行く。(年1~2回)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の方の手伝いをよくしてくれる。地域行事に参加するとボランティアの気持ちなどを理解してくれているようで良かったと思う。
○ 公園掃除には、必ず親子で出席している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「えらいね」とほめてくださる。ありがたい

昔遊びを教えてもらいました！～重富小～



○ 学 年 第1学年 ○ 教 科 生活科

具体的な内容

- 重富校区の「昔の遊び名人」をお招きし、「けん玉」「お手玉」「あやとり」「こま回し」「竹馬」「紙ひこうき」を1年生に教えていただきました。
- 左の写真は、「お手玉」を教えてもらっている様子です。始めは、投げたお手玉をつかまえるのが難しそうでしたが、慣れるにつれて上手になり、連続してつかまえられるようになり、子ども達は大喜びでした。

児童の感想

- ぼくは、「こま回し」をしました。ひもを巻くのが難しかったけど、出来るようになりました。でも、投げるのも難しくて最後に1回だけ回せました。とっても嬉しいでした。
- わたしは、「紙ひこうき」を作りました。折り方を教えてもらって飛ばしてみると、すごく遠くまで飛んだので嬉しいでした。

生活科「剣の平まつり」友達と協力してお祭りを成功させたよ～重富小～

「何を作ろうかな？ 喜んでくれるかな？」



「いらっしゃいませ！」



○ 学 年 第2学年 ○ 教 科 生活科

ねらい

- 自分達で考えた「剣の平まつり」を計画し、招待する一年生・保護者・保育園生に楽しんでもらえるようにという願いを持って、友達と協力して準備を進めることができる。
- 身の回りの材料や自然の素材を生かして作業する中で、自分や友だちのよさ、工夫することのおもしろさに気づくことができる。

子どもの反応

- 子どもたちは、招待するお客様の顔を思い浮かべて、自分がやりたいお店やゲームを考え、アイディアを出し合い、当まで楽しみながら準備を進めていた。素敵な商品がたくさん並んでいた。
- お祭り当日は、子どもたちで進行をしたり、ゲームのやり方を教えたりと、お兄さんお姉さんとしても笑顔でがんばり、充実感を得ることができた。
- また、後日、秋の収穫祭として自分達で育てた芋を収穫して、焼き芋パーティーも行い大喜びだった。

総合的な学習の時間「お茶摘みをしよう!」～重富小～



○ 学年 第4学年 ○ 教科 総合的な学習の時間

ねらい

○ 学校の山にある茶畠で茶葉を摘んだり、自分たちで茶葉を煎り、お茶を飲んだりする活動を通して、自然の素晴らしさに気づき、自然を大切にする気持ちを育てる。

子どもの反応

○ お茶摘みを初めてする子どもがほとんどだったが、自ら摘んだ茶葉が身近な「お茶の葉」に姿を変える過程を知ることができ、楽しんで活動することができた。最後は自分達の作ったお茶を何杯もおかわりして飲み、お茶の味と成就感を味わっていた。

道徳性を育む環境の整備～山田小～



具体的な働きかけ

児童が生活する教室や学校の環境は、児童が日々目にし、そのことが心に刻まれ児童の道徳性の育成に深く関わるものであると考える。昨年度、山田小は研究公開を終えた。しかし、きらりんの木は今も健在だ。友だちにもらった励ましの言葉や、手助け、頑張りなどの花でいつも木には花が咲いている。

そんな中で、5年生にもなると照れが先に出て、いいところを見つけても異性のことを書く作業までいかないことがあった。そこで、担任が働きかけをした。

子どもの反応

○ 「いいところを見つけたら、書くって、もう体がそうなってますよ。」と笑顔で答えてくれました。「だって、放送で言われたらうれしいですもん。」と。

ちょっと一言

○ みんなが異性のいいところを書いたり、放送されたりするようになると、自然に書く姿が見られるようになりました。しかし、常に気を配っていないと滞るかもしれません。

高齢者宅訪問 ~北山小~



具体的な活動

北山校区コミュニティ協議会およびP.T.A共催による毎年恒例の高齢者宅訪問を行いました。北山の四つの地域に分かれ、公民館長さん、民生委員の方々、保護者の方々、北山小学校の児童・先生方が参加して、75歳以上の一人暮らしのお年寄りのお宅を訪問し、児童らが育てたパンジーの苗とお手紙、そしてお菓子を持って行きました。肩たたきや歌など皆さんがあなたが大変喜んでください、子どもたちにとってもお年寄りとの大変いいふれあい活動になりました。

子どもの反応

- お年寄りの方々が大変喜んでください、中には涙を流されて歓迎してくださるお年寄りもいらっしゃいました。子どもたちも改めてお年寄り宅を訪問してよかったという感想を持ったようです。

クイズで楽しく知ろう!! 友達のこと ~姶良小~

ねらい

だれのことなのか当てるクイズを通して友だちのことを楽しく知り、子ども同士の相互理解を図ったり、仲を深めたりする。

内容

- ① 一人ひとり、自分の好きな食べ物や教科、遊びなどをカードに書く。
- ② 名前を伏せて、カードに書いてあることを使ってクイズを出す。（「この友だちの好きな食べ物は〇〇です。好きな教科は〇〇で、〇学期は〇〇をがんばっていました。」といった形で。「教師や他の子どもが出す。）
- ③ これらのヒントをもとに、だれのことなのか考えて発表する。（一人で考えてもよいし、ペアやグループでもよい。）

子どもの感想

- ・みんなのことがよくわかっておもしろかった。
- ・いろんな友だちのことが知れた。
- ・〇〇くんがモノマネが得意だと初めて知った。
- ・当てくれてうれしかった。
- ・お友だちのことをもっと知りたくなりました。

わたしはだれでしょう??	
名前	
好きな食べ物	メロン
好きな食べ物	トマト
好きな教科	算数
好きな教科	バトミントン
2学期にがんばったこと	算数
とくいぬごと	作る
2学期の弱い点	うさぎの本をよく読む
誕生日	6月9日

子どもの様子

当てる子も笑顔で楽しく、当たられる子は照れつつもうれしそうでした。友だちについてよく知っていることもあれば、意外だったこともあります。互いのことをよく知ることができました。



「にこにこぶしの木」実践への意欲付けをねらって～西始良小～

取組の概要

- 「にこにこぶしの花」を募る。
 - ・ 保護者の見かけた紹介したい子どもの行為を募る。
 - ・ 子どもの見かけた紹介したい友達の行為を募る。
- 「にこにこぶしの木」に掲示する。
- 道徳通信「心のアンテナ」に掲載する。



名前の由来

西始良小学校の正門をくぐるとすぐに、子どもたちを出迎える「こぶしの木」。そんな西始良小のシンボルツリーである「こぶしの木」と、西始良小の子どもたちの笑顔にちなんで「にこにこぶしの木」とした。

にこにこぶしの花（児童から）

わたしが1人でいるとき、4年生の〇〇さんが、こえをかけてくれてうれしかったです。【1年女子】

5年生の〇〇おねえちゃんは、そうじのしかたをおしえてくれます。だから、水どうのそうじがじょうずになりました。【2年女子】

3年生の〇〇くんが、ろう下に落ちているごみを拾ってちり箱に捨てていました。【6年男子】

にこにこぶしの花（保護者から）

子どもが登校中に転んでけがをした時、6年生のお姉さんが、近くの自宅まで帰り、救急箱を取りに行って手当をしてくれました。本当に感謝。ありがとうございました。

2年生の〇〇ちゃんは、娘の朝のお迎えの際、とても気持ちのよいあいさつをしてくれて、さらに待たせているのに優しい声かけをしてくれます！朝からとても優しい気持ちになります。

「笑顔とあいさつ日本一」をスローガンに掲げて～児童会の取組～～松原なぎさ小～



開校1年目の松原なぎさ小学校では、全校児童みんなが一つになるために、児童代表委員会でスローガンを話し合い、決定しました。

松原なぎさ小スローガン

「なぎさっ子 みんななかよく
学び合い 笑顔とあいさつ日本一」

活動のポイント

- 笑顔日本一のために、みんなで遊ぶ日の設定を代表委員会で決定
- あいさつ日本一のために総務委員会が毎朝あいさつ運動実施
- 代表委員会で取組の反省を行い、一層の改善を促進

実践の中心となった総務委員会児童の感想

- 僕たちがあいさつをすると、元気にあいさつを返してくれました。とても心があたたかくなつて、朝からいい気持ちになりました。
- 雨の日や寒い日は大変だったけれど、みんなの元気なあいさつで頑張ることができました。
- これからも笑顔を忘れず、みんなと仲良く過ごしていきたいです。

「笑顔とあいさつ日本一」をスローガンに掲げてー児童会の取組ー～松原なぎさ小～



対象：全学年

実施日：毎月第3火曜日

朝の会や帰りの会

ねらい：児童が健康に関心をもち、自ら進んで心身の健康つくりを実践するための基本的な生活習慣や態度を育成する。

活動のポイント

- 保健主任を中心に、部会で方針を共通理解し、職員会議で提案
- 毎月、養護教諭が教師用指導資料を作成し、配布
- 学級担任が、児童の実態に応じて実践的指導

実践の中心となった学級担任の感想

- ほけんの日の前に、実際の手の洗い方を職員全員で試行したので、児童にも伝えやすかった。
- 学級指導用の掲示資料は、児童の視覚に訴えることができ効果的だった。
- 学年の発達の段階に応じた資料があったら、指導がより行き届くかと思う。
- 子どもたちにとって、新しく知ることが多くとても新鮮な目で真剣に考えを深めていた。

見つけよう 福祉の心 -高齢者とのふれあい体験-～西浦小～



本校では、総合的な学習の時間に「見つけよう福祉の心」という単元で学習をしている。

「見つけよう 届けよう 福祉の心」という共通課題のもと、高齢者の方たちとの交流を通して、それぞれの立場になって考え方行動することができる子どもの育成を目指して活動に取り組んでいる。具体的には、姶良市の養護老人ホーム「南天園」を年に2回訪問し、合唱や合奏の発表をはじめ、小グループでの交流活動を実施している。子どもたちは、高齢者の方に楽しんでもらえるものは何か、仲良く活動できるものは何かについて話し合い、カルタや塗り絵、風船バレーなどを計画し、一緒に活動を楽しんだ。「うまく話しかけることができない。」と感じていた子どもも、活動を通して次第に心を通わせているようであった。高齢者の方たちから喜んでいただけたことが、子どもたちの自己肯定感を高め、思いやりや優しさを育っていくように思われる。この他にも、地域の敬老会への参加や、花の鉢植えの宅配などの活動も実施し、地域の高齢者の方たちとも積極的に関わっている。

写真で語る道徳教育の実践事例 (教師力ブラッシュアップVol. 3)

道徳の時間における取組 編

自分の考えを再構成する -グループでの意見交流を通して- ~柏城小~



- 学 年 第6学年
- 指導内容 3-(1) 生命尊重
- 資 料 名 ラッシャワーの惨劇

具体的な働きかけ

線路に落ちた人を助けようと、線路に降りた二人の心にあったのは、どんな思いなのかを考えワークシートに書き込ませた。そのワークシートを基にグループで意見交流をさせることで、自分とは違う考え方や自分と同様の考え方があることに気付かせ、自分の考えをより深めさせた。

子どもの反応

最初、子どもたちは、スピヨンさんは日本と韓国の架け橋になりたいという思いを大切にしていたと思っていた。しかし、グループの話し合いを通して、他人の命も自分の命と同じぐらい大切にしたいという思いが強くなってきていた。

ちょっと一言

グループでの意見交流をする際に、まず、お互いのワークシートを読み合い、自分と似ているところや違っているところを見つけるとよいと助言すると意見交流が進みやすくなるようです。

葛藤場面の主人公の心情に迫る教材の工夫 -心の揺れを天秤の揺れで表す- ~栃城小~



- 学年 第1学年
- 指導内容 4-(3) 家族愛
- 資料名 こきちとおかあさん

具体的な働きかけ

母の手伝いか、友だちと遊ぶかを選ぶ葛藤場面で、子どもから意見が出たら色の付いたボールを天秤に入れ、揺れている主人公の気持ちを視覚的に捉えやすくした。また、ボールの色は、それぞれの板書の色と揃えた。その後、揺れる気持ちの中で、「毎晩遅くまで仕事をしている母親」という視点の意見をもとに、家族愛について考えるようにした。

子どもの反応

天秤が動くのを見て、「もっと天秤が傾く意見を発表したい。」「反対の意見はないかな。」など、葛藤場面の主人公の気持ちをじっくり考え、発表する姿が見られた。動く様子を見て、大変活発な意見交流ができた。

ちょっと一言

天秤は、葛藤場面での心の揺れを表すには効果的だったが、より傾いた方が勝ちというような考え方ではなく、どちらの気持ちにも共感できる発問等の工夫が必要である。

登場人物の心情に迫る役割演技の工夫 ~栃城小~



- 学年 第2学年
- 指導内容 2-(3) 友情・信頼、助け合い
- 資料名 こまのプレゼント

具体的な働きかけ

自分の考えと友達の考えとの共通点や相違点に気づかせるために役割演技を取り入れた。資料の中の登場人物の気持ちになりきるように自分の役の挿絵カードを首にかけ、折り紙の箱を実際に準備し、それを手渡しながら台詞を言うようにした。

その際、見ている側には演技をしている児童の表情にも注目させるように助言した。その後、多様な意見に触れさせるために全体での意見交換を取り入れた。

子どもの反応

心の二面性をとらえさせてから、けんちゃんがまきちゃんにどのような言葉かけをしたのか役割演技をすることで、「友情・信頼・助け合い」の価値に気付き、自分の姿と重ねて考えを深めている子どももいた。

ちょっと一言

「こまのプレゼント」は葛藤場面が明確であり、役割演技を楽しみにしている子どもが多いため、活発に活動していた。ワークシートと役割演技場面の関連や役割演技中の対話の流れなど、資料分析を細かく行う必要がある。

葛藤場面の主人公の心情に迫る教材の工夫 -心の揺れを天秤の揺れで表す- ~松城小~



- 学年 第1学年
- 指導内容 4-(3) 家族愛
- 資料名 こきちとおかあさん

具体的な働きかけ

母の手伝いか、友だちと遊ぶかを選ぶ葛藤場面で、子どもから意見が出たら色の付いたボールを天秤に入れ、揺れている主人公の気持ちを視覚的に捉えやすくした。また、ボールの色は、それぞれの板書の色と揃えた。その後、揺れる気持ちの中で、「毎晩遅くまで仕事をしている母親」という視点の意見をもとに、家族愛について考えるようにした。

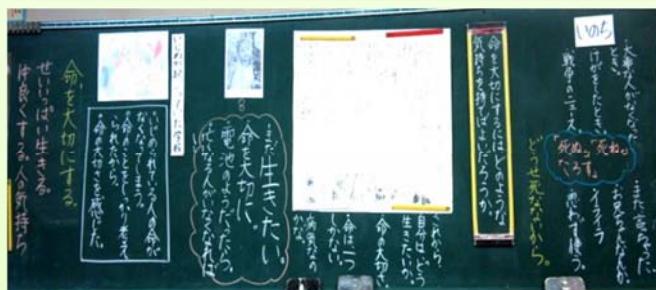
子どもの反応

天秤が動くのを見て、「もっと天秤が傾く意見を発表したい。」「反対の意見はないかな。」など、葛藤場面の主人公の気持ちをじっくり考え、発表する姿が見られた。動く様子を見て、大変活発な意見交流ができた。

ちょっと一言

天秤は、葛藤場面での心の揺れを表すには効果的だったが、より傾いた方が勝ちというような考え方ではなく、どちらの気持ちにも共感できる発問等の工夫が必要である。

葛藤場面の主人公の心情に迫る教材の工夫 -心の揺れを天秤の揺れで表す- ~松城小~



- 学年 第5学年
- 指導内容 3-(1) 生命尊重
- 資料名 命

授業の様子から

軽はずみな気持ちで、「死ぬ」「死ぬ」という言葉を使っているという実態調査の結果から「命」は大切であるが、「命」への軽い気持ちを持っていることが分かった。そこで、「命」という詩をもとに主人公の気持ちに迫っていった。子どもたちは、余命わずかな同じ5年生の詩に、これまで自分たちが「死」という言葉を発していた気持ちと主人公の「死」という思いの違いを感じ、読んだ後は何も言えない時間があった。また、この詩を読んだ学級からいじめが消えていったのは、一人一人が命の重さや友だちを思う気持ちが出てきたからだと考えることができた。子どもたちは、ストーリーの流れから、終末段階において「命を大切にするには」ということに対し「病気の人には優しくする。」「病気の人を元気づける。」という意見が出た。しかし、自他の命の観点で考えてほしかったので、「今現在の自分自身では?」「学校生活では?」と切り返す発問を行ったところ、「死について簡単に考えない。」「自分も精いっぱい生きる。」「友だちと仲良くする。」「友だちをいじめない。」などの考えに至った。

ねらい

生命あるもの全てに対して、かけがえのないものとして尊重し、大切にしようとする心を育て、進んで自他の生命の大切さについて考える態度を養う。

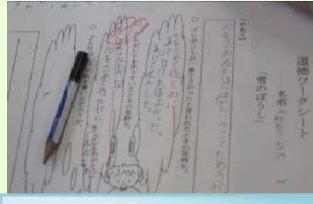
子どもの反応

余命わずかな院内学級の主人公が、命のある限り精いっぱい生きたいという思いや命を軽く考えている人へのメッセージがこめられた詩を読み、それを読んだ子どもたちの学級で、いじめが消えていったというストーリーである。

主体的に考える道徳授業の進め方～錦江小～



板書の工夫



ワークシートへの記入



話し合いの場の設定



全体へ意見の交流

- 学年 第6学年
- 指導内容 2-(2) 思いやり・親切
- 資料名 雪のぼうし

具体的な働きかけ

- ・ 話合いの場を設定し、「心をこめる」とは、どういうことなのか、一人一人に考えを持たせた上でお互いの考えを話し合った。
- ・ 子どもの意見や価値観、心の動きが視覚的に分かるように、構造的な板書を心掛けた。
- ・ 登場人物の気持ちに共感させるため、ワークシートに書かせ、自分と登場人物とを重ね合わせて考えさせた。

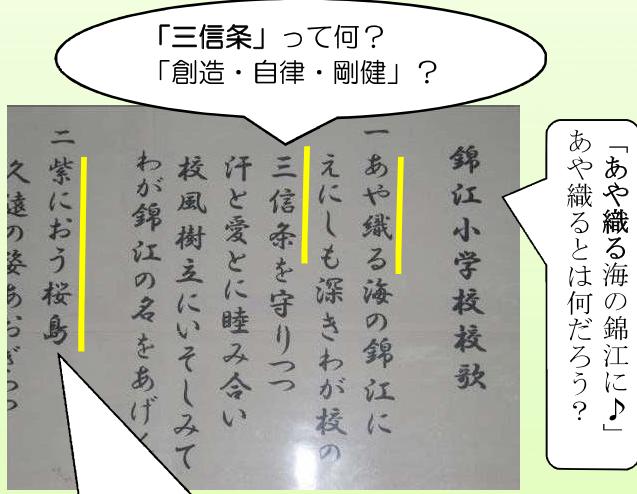
子どもの反応

- ・ 「心のこもったプレゼント」とは、どういうものか考え話し合った。「手作りの物」や「手作りでなくても相手のことを考えたものは、心がこもっているのでは。」など、一生懸命話し合う姿が見られた。
- ・ 普段の生活の中にも、心をこめてという言葉が聞かれるようになり、心をこめて何かをしようとする動きが出てきたように感じる。

ちょっと一言

道徳的実践力は、一朝一夕には育たない。長期的展望に立った継続した働きかけにより育成されると考える。内面に根ざした道徳性を育む「心の教育」を充実させるためには、常に子どもとともにあり、子どもの成長を見守り、子どもの成長を喜ぶ、教師の姿勢が必要であると改めて感じた。

校歌♪+「私たちの道徳」で育む学校・地域への敬愛の心～錦江小～



「紫におう桜島♪」桜島が
紫?なぜにおうの?校舎からよく見
えるからかな

- 学年 第5学年
- 指導内容 4-(6) 愛校心
- 資料名 校歌

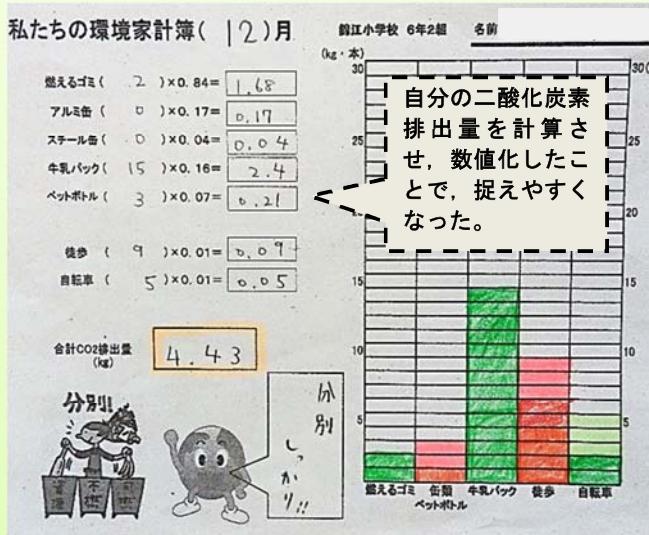
具体的な働きかけ

- ① 校歌を歌い、分からぬ歌詞・内容について線を引き予想させる。
- ② 意見を交換したり辞書で調べさせたりする。
- ③ 校歌のよその意味を知る。
- ④ 歌詞で一番好きな言葉を発表する。
- ⑤ 「私たちの道徳」P161（より良い校風を求めて）を活用し、学校の自慢や好きな所を記入し発表する。
- ⑥ 卒業生や地域の方の学校に対する思いを伝える
- ⑦ 思いを込めて校歌を歌う。

子どもの反応

- 〈事前〉式で必ず歌うけど、意味が分からないところもあるぞ。どんな思いが込められているのかな。
〈事後〉校歌にはこんな意味があったのか。素晴らしい所がたくさんあるな。学校っていいな、大切にしたい。

登場人物の心情に迫る役割演技の工夫 ~柁城小~



- 学年 第6学年
- 指導内容 4-(3) 環境保全
- 資料名 自作資料、私たちの道徳

具体的な働きかけ

子どもたちが知っている身近な環境問題について取り上げ、「自然を破壊しているもの」や「どのようにしたら自然を守ることができるか」などについて討論した。

そして、数値化できるように提案し、学級全体で取り組むようにした。

子どもの反応

子どもたちは、朝のボランティア活動等に普段から取り組んでおり、環境に対する意識はあったが、学習を通して、自ら進んで行動する場面が増えた。また、環境に対する情報の収集や発信にも関心・意欲をもつようになった。10月「環境家計簿」の実践も継続させており、身近な環境の保全を進んで行う態度が育ってきている。

ちょっと一言

1年を通して環境教育の視点で、道徳的心情や実践力を高めた。子どもの心の変化が周りの人の喜びに変わり、また、子ども自身の誇りや自信にもつながった。

あいさつの大切さに気付かせるために ~錦江小~



- 学年 第2学年
- 指導内容 2-(1) 礼儀
- 資料名 まほうのあいさつ

具体的な働きかけ

- ・ 友達同士あいさつをさせて、あいさつをしたときやされたときの顔に気付かせた。
- ・ 役割演技をさせることで、あいさつをするとどのような気持ちがするか考えさせ、「あいさつは、みんなを〇〇にするまほう」の〇〇を考えさせた。

子どもの反応

- ・ 子ども同士であいさつをする場面では、少し恥ずかしそうにしていたが、笑顔が多かった。
- ・ 教室の入り口であいさつの練習をさせたところ、子どもたちの声がどんどん大きくなっていった。
- ・ 担任が朝みんなを教室で迎えるので、あいさつを必ずして教室に入ること、他の先生たちにも必ずあいさつをするということを伝えると、毎朝元気よく気持ちのよいあいさつをして登校する子どもが増えた。また、笑顔で教室に入ってくる子が増えた。

ちょっと一言

4月から、毎朝子どもたちを教室で迎えてきた。「おはようございます」の声で、子どもたち一人一人の元気のバロメーターを感じることができた。また、「他の教室の先生方にも必ずあいさつをする」ということを約束し、年間を通して自然とあいさつができるようになってきた。道徳的実践力は、継続した働きかけで身に付いていくことを改めて感じた。

相手の立場に立って、親切にしようとする心情を育てる授業例 ~永原小~



- 学年 第6学年
- 指導内容 2-(2) 思いやり・親切
- 資料名 心の宝物

授業展開

- 1 宮澤章二の詩「行為の意味」を読み、思いやりや親切について問題意識をもつ。
- 2 資料「心の宝物」を読み、話題について確認する。
- 3 主人公「ぼく」の生き方を通して、思いやりや親切についての考えを深める。
- 4 詩「行為の意味」の全文を聴いて、それぞれ考える。
- 5 全ての話し合いを通して、思いやりと親切の意義や、行為に表すことについての考えを深め、ワークシートに記入する。

あなたは「思いやり」をどのように伝えたいですか？

・例えば誰かが一人で寂しそうにしている時

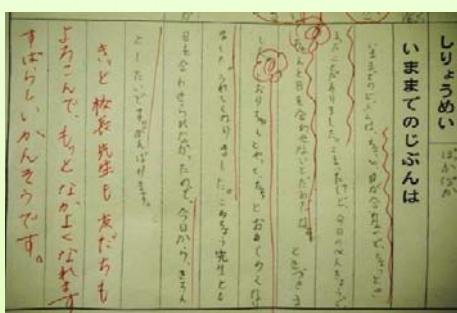
・例えば誰かが失敗して落ち込んでいる時

- ・ 「大丈夫？一緒に遊ぶ？」と声をかける。
- ・ 今は「どうしたの」と声をかけたいと思っているけど、顔を見るとそっとしてあげた方がいいと思ってしまうかも。
- ・ そっと見守って、声はかけない。私はそれが思いやりだと思っているから。
- ・ 原因が自分には関係ないことだったら、声がかけづらい。

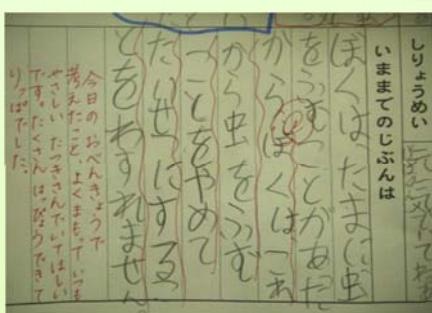
- ・ また一緒にがんばろうよ。
- ・ 失敗したかもしれないけど、すごかったよ。
- ・ みんな失敗はするんだよ。
- ・ 大丈夫！大丈夫！
- ・ どうまい！次もう一回！
- ・ また次がんばればいいよ

自分で進んで感想を書ける道徳の授業 ~永原小~

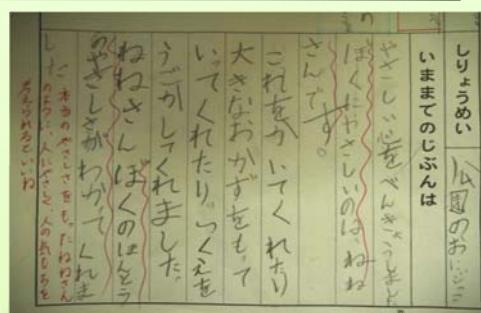
児童が、普段の自分と向き合い、自分のこととして道徳の授業に向き合えることを目ざして道徳の授業をするようになっている。授業の流れやめあて、ノートの書き方などをパターン化することで、児童が進んで学習する態度を養っている。また、関連のある児童の様子を授業はじめに見せることで、問題意識を持って授業に取り組むようになっている。友だちと自由に感想を話し合うことで、さらに思考を深めるようになった。



【資料名「ぽっかぽか】



【資料名「元気でねあげはくん】



【資料名「公園のおにごっこ】

1. 普段の様子を確かめ、感想を発表し合う。
(アンケート・日記・写真・動画など)
2. 「めあて」を決める
(～するには、どんな気持ちが大切だろう。)
3. 道徳ノートに主題名・資料名を書く。
4. 共感できるところに線を引く。
5. 気持ちの変化と一緒に考える。
6. 感想や学んだことを自由に話し合う。
7. みんなでまとめにふさわしい言葉を考える。
8. 「今までの自分を振り返って」を書く。

今までの自分を確かめる

資料と自分を重ねて読む

友達の考え方や気持ちを知る

これからの自分を考える



話し合いの様子

こころをつなぐあいさつ ~帖佐小~



- 学 年 第1学年
- 指導内容 2-(1) 礼儀
- 資 料 名 かめさんありがとう

ねらい

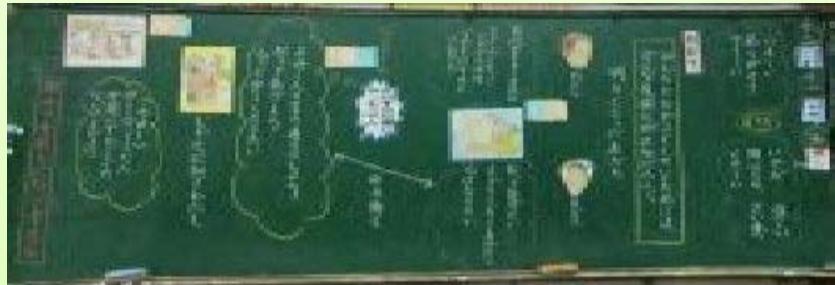
状況に応じた適切な言葉遣いで、誰に対しても気持ちのよい挨拶を心がけようとする気持ちを育てる。

具体的な働きかけと子どもの反応

- ・ りすやかめなど役割演技をしたことで、挨拶をした方とされた方の両方の気持ちを感じることができ、自分の気持ちも言うことができた。
- ・ 自分の考えをまとめるために、副読本に書き込みをして友達とも話し合いができるようにした。

友だちと仲良くし、助け合う心を育もう ~帖佐小~

- 学年 第3学年
- 指導内容 2-(2) 思いやり・親切
- 資料名 「明るくなった友だち」



ねらい

相手の身になって考え、だれとでも仲良くし、困っている人に気付いたら、進んで助けようとする心情を育てる。

具体的な働きかけと子どもの反応

- ・ ハートメーターを活用することで、主人公の心の葛藤を考えることができた。
- ・ 自分の考えを深めたり、整理させたりするためにワークシートを活用した。その中で役割演技を行ったことで、場面に即して考え、自然と自分の言葉を出すことができた。
- ・ 終末に「わたしたちの道徳」を活用して、友達のよい所を見つけて記入した。

助け合って～帖佐小～



始業前のボランティア活動



街頭募金活動

- 学年 第6学年
- 指導内容 4-(4)勤労、社会奉仕、公共心
- 資料名 よみがえれ、日本海

具体的な働きかけ

1 道徳的価値の自覚化

子どもたちは、日頃からボランティア活動に取り組んでいるが、能動的というよりも受動的に取り組んでいる子どもが多い。そこで、日本海重油タンカー転覆事故の際の、ボランティア活動の資料を取り上げ、価値の自覚化を図った。説話では、「気付き、考え、実行する」という青少年赤十字の理念にふれ、考えを深めさせることができた。

2 自己の生き方について考え方を深める活動

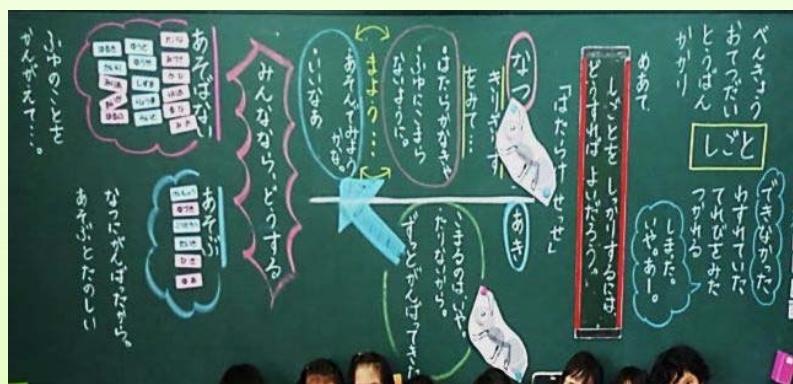
子どもたちは日頃から始業前に落ち葉拾いや玄関掃除のボランティア活動に取り組んでいたが、「遊びたいから」「寒いから」という心の弱さが勝り、進んで取り組む子どもは少なかった。しかし、授業の翌日からは、ボランティア活動に自ら取り組む子どもが増えた。

また、赤い羽根共同募金の学校募金ならびに街頭募金に取り組んだ。街頭募金は、希望者を募っての実施であったが、多くの子どもが自ら参加した。募金活動後、次のような感想もあり、道徳的実践力が高まった。

子どもの反応

「最初は恥ずかしかったけど、みんなが協力してくれてうれしかったです。これからもボランティア活動に取り組んでいきたいです。」

自分の立場をはっきりさせて、交流する場を設けた実践～建昌小～



- 学年 第1学年
- 指導内容 1-(2) 勤勉・努力
- 資料名 はたらくせっせ

具体的な働きかけ

【ネームプレートの活用】

ネームプレートを黒板に貼り、まず自分の立場を決めさせた。その後、同じ考え方の子ども同士で話合いをさせ、終末ではお互いの考え方を発表してもらった。

途中で、プレートを移し直したいと発言する児童も見られ、積極的に授業に参加し、考えることができていたと感じた。

終末では、それぞれのグループの考え方を全員で共有し、お互いの部分を認めながら、これから自分たちはどうしていくかを考えさせた。



構造的な板書を目指した実践 ~建昌小~



具体的な働きかけ① 【板書の工夫】

板書を見て、一時間の思考の流れが見えるよう板書づくりを目指して実践を行った。

本時では、文鳥になる前と後で、主人公の気持ちがどう変わったのかを分かりやすく板書した。

子どもたちは、今までの自分とこれからの自分のことを、主人公と重ねて考えることでこれからはどのような生活を送っていきたいか、そのためには何をしないといけないのかを考えることができていた。

○ 学 年 第1学年

○ 指導内容 1-(1) 健康・安全・生活習慣

○ 資 料 名 ぶんちょうになったマーくん

具体的な働きかけ② 【ワークシートの活用】

ワークシートを活用し、自分の考えをもたせることを大切にした。

自分の考えをもたせることで、グループ・全体での交流の際に、根拠をもって自分の考えを発表することができ、振り返りの際も活用できた。

道徳的実践力を高めるための工夫 ~建昌小~



○ 学 年 第2学年

○ 主 題 名 「大切につかう心」

○ 指導内容 1-(1) 節度、節制、自立

○ 資 料 名 「ノートのひこうき」

具体的な働きかけ

【グループでの話し合い】

本学級では自分の意見を持ち、お互いに意見を発言し、聞くことを意識して取り組みを行っている。道徳の時間においては、「主人公の気持ち」や「もし自分がいたら…」という意見を持たせることのほかに、授業で学んだ価値観をもとにこれから的生活にどのように生かしていくかについて話し合っている。

子どもたちの反応

- グループで話し合うことにより、自分の考えを話したり、相手の考えを聞いたりすることができる話し合いは活発になってきた。また、相手の意見を聞くことで新たな価値観が身についた児童もいた。
- 道徳的実践力については、授業後は多くの児童が学んだことや話し合ったことを意識して取り組もうとしている姿が多く見られた。

自分を見つめる活動を大切にした道徳の時間～建昌小～



○学年 第3学年
○指導内容 3-(2) 生き物をいたわる
○資料名 「けがをしたつる」

具体的な働きかけ

道徳の時間の終末段階では、毎時間必ず、これまでの自分はどんなだったか、これからはどうしていきたいかを考える時間を設けるようにした。ワークシートの上部分に副読本の資料を使った内容を、下部分に自分を振り返って考えたことを書くことができるよう作成した。

今回の実践は、「動植物を大切にしようとする態度を養う。」がねらいで、子どもたちは家で育てているメダカ、カブトムシ、犬、ホウセンカ、ヒマワリなどに対する接し方を振り返り、これからどうしていきたいかを考えることができた。

人権（生きることの意味・尊さ）を考える～建昌小～

具体的な働きかけ

- 資料を紙芝居風にして読み進めながら、読み終わった場面を黒板に貼っていくことで内容を振り返ることができますようにした。
- 途中に3つの質問（選択肢あり）を入れ、それぞれの選択肢の理由や考えを出し合うことで、意見交換しながら進めた。

今後の課題

障害者を見かけた経験は、ほとんどの子どもたちがあるが、実際に話しかけたり接したりした経験を持つ子は少なかった。本資料の宇都宮さんの積極的な生き方に共感する子どもたちが多くだったので、日常生活において障害者への具体的な接し方と人として生きることの意味と尊さを考える場を今後も設定していきたい



ワークシートを活用して主題を方向付ける指導方法の工夫 ~建昌小~



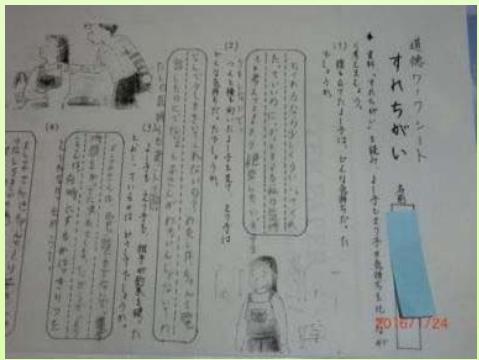
○学年 第5学年
○指導内容 2-(5) 寛容・謙虚
○資料名 「すれちがい」

具体的な働きかけ

本資料は、行動のすれ違いから感情を対立させてしまうことになった事実を通し、広い心で相手の立場を考え、自分と異なる意見も大切にする気持ちを育てることをねらいとしている。

展開部では、時間的な経過と出来事、登場する二人の気持ちを一覧して対比することができるよう板書をし、二人とも約束を破っていないことを押さえ、お互いに相手の事情を知らないという点に気付かせた。また、ワークシートを活用することで、じっくりとそれぞれの気持ちや心の中のつぶやきを考え明記させることで、二人に欠けていた点に気付かせ、だれにもありがちな心の弱さを感じ取らせた。はじめに聞いていた事例を思い起こさせ、自分の生活に置き換えて振り返らせた。

終末部では、相手の立場や意見を尊重することとは何かを考えながら詩を音読し、オープンエンドとした。



「畏敬の念」を感じる道徳授業の実践① ~建昌小~



具体的な働きかけ① 【めあてを立てる】

めあてについては、本時の学習で子どもたちに考えさせたいことを、子どもたちの普段の生活に置き換えて考えさせてることで、学習の見通しを持たせながら設定する。

具体的な働きかけ② 【実践につなげるための振り返り】

学習の振り返りとして、ワークシートに本時の学習の感想を書かせる。本時の学習を通しての感想だけではなく、今後自分がどうしていきたいかについても書けるように声かけをする。机間指導しながら、実践へつながるような感想が書いている児童を称賛し、発表させることで全体への指導にもつなげる。

具体的な働きかけ③ 【場面ごとの読み取りから】

教材文を読んだ後、登場人物の心情を場面ごとに考えていく。そこで自分の気持ちと置き換えて考えていけるようにし、めあてからまとめへとつなげていく。

「畏敬の念」を感じる道徳授業の実践② ~建昌小~



○学年 第6学年
○指導内容 3-(3) 敬けん
○資料名 「青の洞門」

具体的な働きかけ

「畏敬」について考える道徳の授業を行った。資料は、「青の洞門」という実話をもとにしたものである。

人々の命や生活を守るために、岩にトンネルを掘り続ける了海と、かつて了海に父を殺された実之助の心の動きについて考えた。

その後、日常生活における「畏敬」の実例をもとに子どもたちと考えた。

子どもたちの反応

- 人の命を守るために岩を掘り進める了海はすごいと思う。自分の人生をさせいにしてまで、人のために頑張りたいとは、今の自分では思えない。
- 毎日、「算数の問題」を学校で自主的に説き続けている友だちを見て、すごいと思っていた。今日の道徳の了海と似ていると思った。命を救うことだけでなく、一つのことをやりぬくことがすごいことだと思った。
- 友だちを見て、尊敬できるところもあるので、自分も取り入れていきたいと思った。

「私たちの道徳」を活用した学習！ ~重富小~



○学年 第6学年
○指導内容 1-(2) 自由・責任
○主題名 「自由とは」

具体的な働きかけ

○「自由」とはどんなことだと思うか個人で考えた後、グループで話し合わせた。グループではそれぞれの意見を発表後、どの意見により共感したか話し合い、グループの意見をまとめていった。話し合ったことは、できればキーワードでまとめさせ、ホワイトボードで発表をさせた。振り返りでわたしたちの道徳を活用し、自分の「自由」に対する考え方を書かせた。

子どもたちの反応

○キーワードの発表もあったので、「なぜ〇〇ですか。」とさらに突っ込んだ質問もあった。その答えを聞いて「なるほど。」と自分の考えと友達の考えを比べることもできたより考えが深まっていた。

道徳の時間の教室設営の取組について～始良小～



授業で使ったワークシート掲示に使うことで、触れ合えなかった友達の考えを知ることができます。

キーワードでまとめた言葉の木

授業で使った挿絵をそのまま掲示に使う

具体的な取組

1年間を通して道徳の時間の設営ができるように、また、どんな教科や時間においても学んだことがすぐ子ども達の目に触れるような教室環境はどうあればよいかは、自分自身も悩むところである。

今年度は、道徳の時間の『まとめ』として一言でいうと大事な考え方や気持ちは?という問い合わせをしてきた。(キーワードでまとめる。)

その一言集を木に貼ることで、いつでも見返すことができ、他の時間や教科においても『〇〇な気持ちが足りなかった』や『〇〇な気持ちが充実していた』と振り返ることができた。

「思いやり」のある子どもの育成～始良小～



- 学年 第1学年
- 指導内容 2-(2) 思いやり・親切
- 資料名 「はしのうえのおおかみ」

具体的な取組①

役割演技を取り入れ、話し合い活動を行い、いじわるをしているときの気持ちと親切にしたときの気持ちを比較して、親切にしたときの方がよい気持ちになることに気付かせる。

具体的な取組②

「朝の会の思いやりの歌」、「帰りの会の思いやり発表」

毎日の朝の会では、手話で「友達になるために」を、気持ちを込めて歌い、友達について考えた。手話をすることで、歌詞を噛みしめて歌うことができ、「友達」の大切さを感じることができた。

帰りの会では、「今日のキラキラ発表」を行った。一日で、「ありがとう」と感じたことを発表し、友達に対しての感謝の気持ちを皆さん伝えるようにした。



正しいことは思い切って～始良小～

- 学年 第3学年
- 指導内容 1-(3) 勇気
- 資料名 「あとひと言」

授業の展開

- 1 悪いことと分かっていてやってしまった経験を発表する。
- 2 資料「あとひと言」を読み、心の葛藤場面について討議させる。
- 3 今までの自分を振り返って、考えたことをノートに記入し発表する。
- 4 鹿児島県の読み物「おこった小吉」を読む。

友だちからの危険な遊びの誘いを断ったが、どうすればもっとよかったのか。



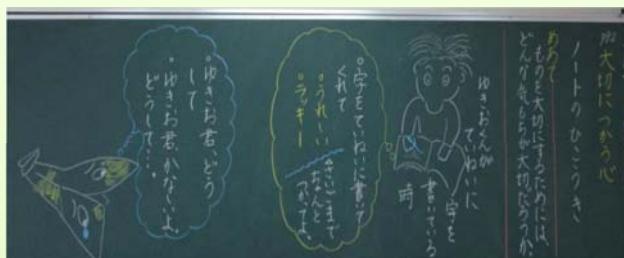
友だちにもやめるよう注意する。

明日から遊んでもらえなくなるかも。

子どもの感想

- ・わたしは6年生ぐらいの人たちが危ないことをしていたので、注意したことがあります。注意するのはドキドキしてこわかったけど、勇気を出して注意してよかったです。
- ・年上の人に注意したとき、何と言いく返すのかこわかったけど、ちゃんと言って、相手もあやまってくれたのでほっとした。
- ・正しいことをしているのだから、勇気を出したら気持ちがすっきりした。
- ・「ああ、よかった。言えた。」と思って、いいことをしたなと心から思いました。
- ・「ああ、あんな時に勇気をだしておけばよかったなあ。」と思うことがあった。

大切に使う心～始良小～



- 学年 第2学年
- 指導内容 1-(1) 節度・節制、自立
- 資料名 「ノートのひこうき」

具体的な働きかけ

- 絵を用いた場面の焦点化を行い、考える場面を分かりやすくする。
- ワークシートの書かせることで、これまでの自分を振り返る。

子どもの反応

- 活発に意見を出し、本音を発表していた。
- これまでの自分が物を大切にしていなかった具体的な場面を反省したふり返りを行っている子どもがたくさんいた。

実践の意欲化をねらって 家族の動画と家族からの手紙 ~西始良小~



- 学 年 第4学年
- 指導内容 4- 家族愛
- 資 料 名 「お母さんのせい求書」

具体的な働きかけ

- 広げる段階(授業の終末)で、実践への意欲が高まるように、事前に保護者にいたいた写真を基に作成した家族の笑顔あふれる動画を見たり、家族からの手紙を読んだりする活動を取り入れ、余韻を残して授業を締めくくった。

子どもの反応

突然の家族の動画や家族からの手紙に驚いていた様子だったが、自分の家族の写真が出てきたり、手紙を読んだりすると嬉しそうに、恥ずかしそうにしている様子だった。自分のことだけ考えて行動するのではなく、「大好きな家族のために」、「家族が笑顔になるために」、「家族の一員として」といった気持ちをもって生活することが大切だと考えることができた。

今日、道とくで家族について考えました。「お母さんのせい求書」を読みました。私は、ワークシートに「お母さんごめんなさい。お金はもういよいよ。いつもありがとう。」と書きました。私は、自分のことばかり考えず、家族の気持ちも考えて行動したいなと思いました。なので、このことをこれから守りたいと思います。

【子どもの日記】

体験的な活動を補充して、価値の自覚を深める授業 ~松原なぎさ小~



- 学 年 第3学年
- 指導内容 4-(5)郷土愛
- 資 料 名 「ふろしき」

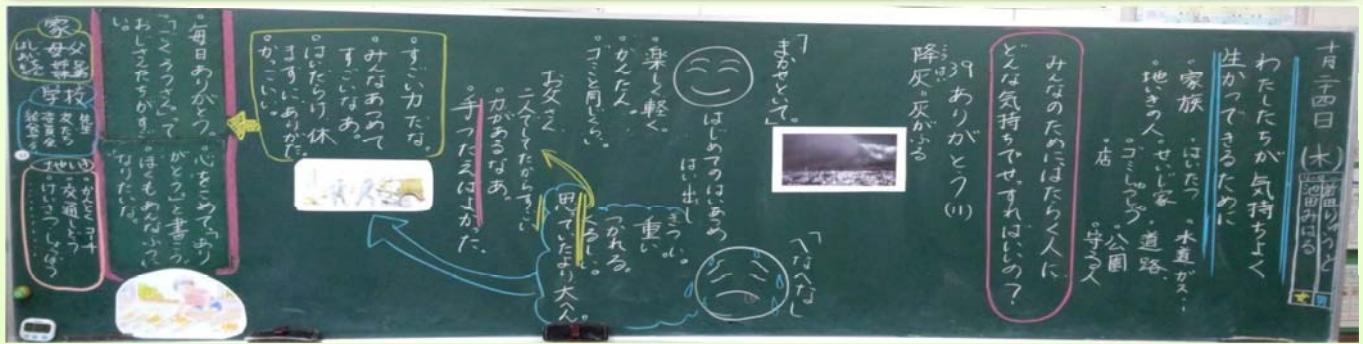
活動のポイント

- 普段なじみの少ないふろしきのよさに気付かせる「補充」の時間と捉える。
- 読み物教材「ふろしき」を通して、ふろしきのよさに触れた主人公の心情を理解させる。
- 実際にふろしきの様々な活用法を体験し、日本の伝統文化の素晴らしさを実感できるようにする。

授業実践後の感想

- おばあちゃんが使っているのは見たことがあったけれど、初めて触ったらさらさらで気持ちよくて、いろんな物が持ち運べることにびっくりした。
- 自分の教科書をふろしきで包んでみたら、とても大事な物を入れているような気持ちになった。
- 日本のいいものがなくなないように、これからどんどんふろしきなんかを使っていきたい。

郷土の読み物教材だからこそ、深まる価値の自覚～松原なぎさ小～



- 学年 第3学年
- 指導内容 2-(4)尊敬・感謝
- 資料名 「ありがとう」

活動のポイント

- 灰に悩まされている鹿児島県民として、生活の困難さや灰の運搬作業をされる方への思いをどんどん引き出せる。
- 克灰袋を実際に持たせて、困難さを実感させる。
- 支えられていることへの感謝の高まりを自覚させる。

授業実践後の感想

- ぼくがありがとうと言いたいのは、ゴミ収集の人や役場の人です。その理由は僕たちが知らない間にいろんな仕事をしてくれるからです。今度ありがとうございます。
- 今度からありがとうという気持ちをちゃんと伝えたいと思います。

議論を生かした道徳の授業～帖佐中～



- 学年 第2学年
- 指導内容 1-(4)真理の追究, 2-(2)思いやり
- 資料名 「一緒につかめない夢」
～『宇宙兄弟』より～（自作資料）

授業づくりの視点

モラルジレンマの討論を行い、自他の価値観を深められるようするために、論点を整理する指示や根拠を明らかにした意見の交流を促す発問などを工夫する。



生徒の振り返り

- ・ 今日は討論をしてとても迷った。なぜなら自分と考えの違う人から、納得させられる意見がたくさんあったからだ。最後に決断するときすごく迷った。どちらの意見が正しいとかはないから、「自分だったら…」と思って選んだ。
- ・ 自分のためではなく、他人のことを考えてから、行動や発言をした方がいいと思った。これからは、自分と他人の意見や考えの両方を尊重した上で、行動に移していきたいと思った。

行事と関連させた道徳の授業～帖佐中～



- 学 年 第1学年
- 指導内容 2-(2)思いやり・感謝、2-(3)友情
- 資 料 名 「GIFT」
(北京オリンピックのテーマソング)

授業づくりの視点

曲を聴き、歌詞の意味について気になった点や疑問に思った点について小グループでお互いの考え方や意見を伝え合い、学級全体で歌詞の意味について考えさせた。

(行事との関連：学級対抗駅伝大会)

生徒の振り返り

- ・ 自分は部活に当てはめてみた。「負けてくやい。」で終わるのではなく。「次、負けを生かして頑張ろう。」と思いたい。
- ・ 「あきらめない」と言う気持ちを、駅伝大会に生かしたい。
- ・ もうすぐ迎える駅伝大会で今日学んだことを生かし、みんなにとって「最高のGIFT」になるように協力したい。今のが1組は「光り続ける」と思う。

生命の尊さ 一地域の方との共同授業一 ~蒲生中~



- 学 年 第1学年
- 指導内容 3-(1)
- 資 料 名 あなたはすごい力で生まれてきた

具体的な働きかけ

【導入】

SSVC の方に来てもらい、「なまえ星」という絵本を朗読してもらい、生命尊重の気持ちを高める。

【基本発問1】

出産のときの、赤ん坊と母親の共同作業を、あなたはどう感じただろうか。

【基本発問2】

「誰に教わるのでもなく、確信をもって乳房から乳を飲みはじめる」赤ん坊に何を感じるか。

【中心発問】

あなたをこの世界に誕生させた「すごい力」とはいったい何だろう。

【終末】

感想を書かせ、発表させる。その後、教師が説話する。

生徒の反応①

- ・ 生命についての本を読んでもらいました。そして自分が生きてきたのはすごいことだということを学びました。自分の命と名前を大切にしていきたいと思いました。
- ・ 私は、妹が生まれるときのことを覚えています。だから今日の授業をとおして、自分の命はとても大切だだということが分かりました。そのことを忘れず、これから毎日過ごします。
- ・ 自分の命は自分でしっかり守っていきたいと思っています。私の名前にも由来があります。この名前に誇りを持っています。だからしっかり守っていきたいのです。
- ・ 私は生きてきて、いろいろな人に愛されてきたんだなあと思い出しました。また、名前を付けるのも難しいことだということを知りました。また生きてくると言うことはお母さんが痛い思いをして、お母さんと一緒にがんばって生れたことも知りました。これからはお母さんにあまり反抗しないよう心がけたいです。

生徒の反応②

- ・ 僕はこの授業を受けて、これからは自分の名前をもっと大切にして、親には感謝して生きていきたいと思いました。
- ・ 命の大切さを知りました。お母さんたちがいなかったら、私やお兄さんは生まれてこなかつたのだ。これからは親にもっと感謝したいです。

教師の感想

生命のもつ偉大な力を敬い、いとおしみ、かけがえのない自他の生命を尊重する道徳的態度を育成することを目的に、地域の方とのTTで授業を行った。

今回は、導入部での朗読をお願いしたが、子ども達の反応もよかったです。

次回は、終末の説話としての授業を行いたい。

取組や子どもたちの姿を紹介いただいた学校・先生方

柁城小学校

渡邊 健二
辻 美咲
榎 将和
日高 照
高橋 美香
才田 修
二宮 進一
小泉 雅弘
北山 剛正
向島 和紀
木原 早和子
藤迫 芳章
笠井 和子
西田 瞬
河野 克幸
高橋 拓真
高橋 拓真
石神 和久
福山 里美
濱崎 雅人
尾曲 健太
先間 裕哉
中園 香里
川崎 充敬
久保木 昭博
星子 聰
瀬戸口 伸哉
奥 由希子
吉海 直
酒井 遼
福田 公剛

錦江小学校

松原なぎさ小学校

堂後 ふみ
稻本 慎吾
湯田 まゆ子,
山口 久美
池下 龍郎
池下 龍郎
平田 歩実
橋口 真由美
安原 和恵
清留 宝美
甲斐 京美
福田 安奈
大重 智浩
西前 茂樹
永井 るみ
川端 智子
宗岡 寿賀乃
渡邊 聰美
畠 康代
穂本 浩
月俣 員貞
四元 大輔
徳田 秀隆
内村 みどり
赤崎 美由紀
中尾 真一
政野 幸恵
小川 皓聖
永江 一喜
紙屋 貴志

永原小学校

西浦小学校

帖佐小学校

建昌小学校

山田小学校

北山小学校

始良小学校

重富小学校

西始良小学校

帖佐中学校

蒲生中学校

取組を紹介くださった学校、先生方、ありがとうございました。ご紹介いただいた取組や子どもたちの姿が、始良市全体に広がっていくとうれしいですね。





平成28年 3月発行 MI通信（WEB版 第2号）